

若者旅行振興の必要性について

平成23年2月14日

国土交通省 観光庁



Japan Tourism Agency Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

目次

1. 若者旅行振興の必要性

2. 若者旅行振興研究会のねらい

<参考>

3. 若者の旅行動向データ

4. 大学生の動向データ

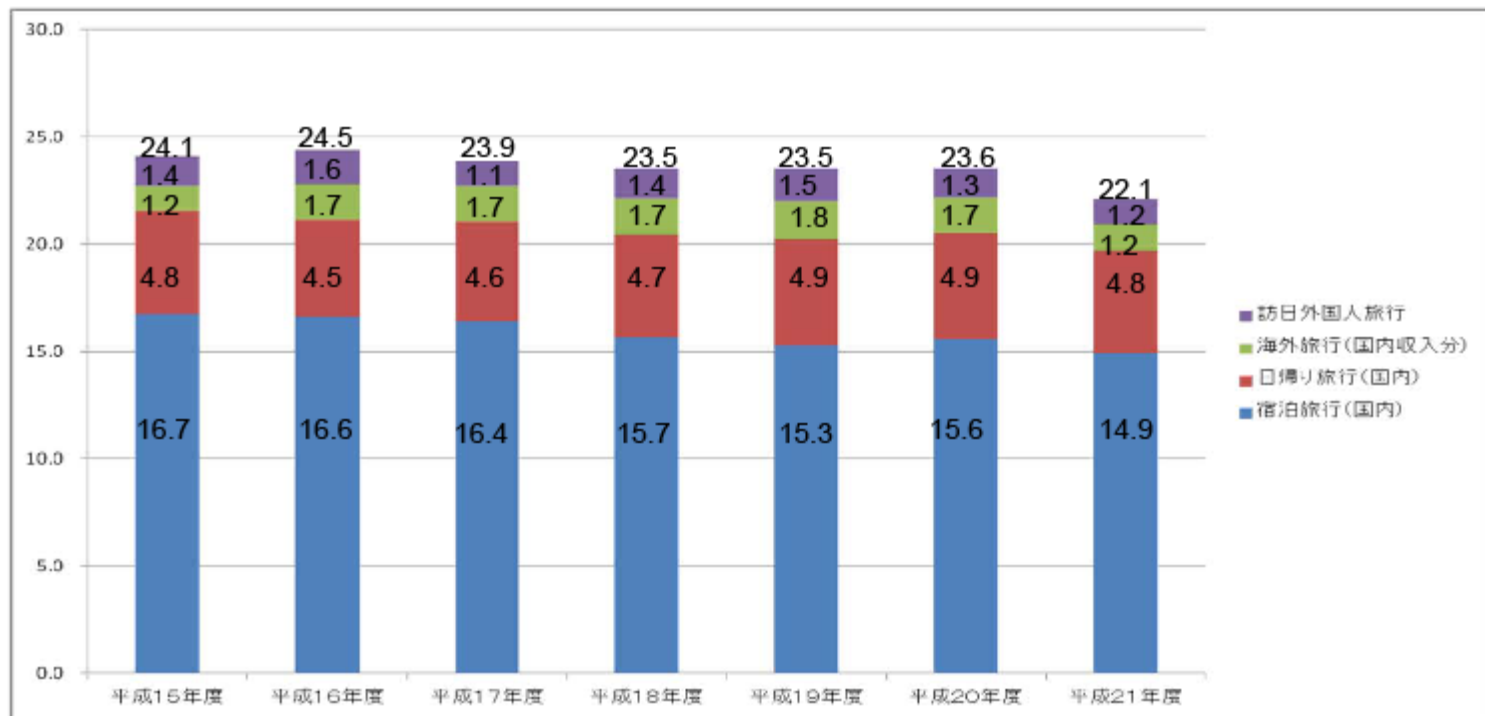
5. 諸外国との観光旅行の動向比較

1. 若者旅行振興の必要性

若者旅行振興の必要性①国内の観光市場の推移

〇ここ数年は大きな動きがなく、ほぼ横ばい。

(兆円)

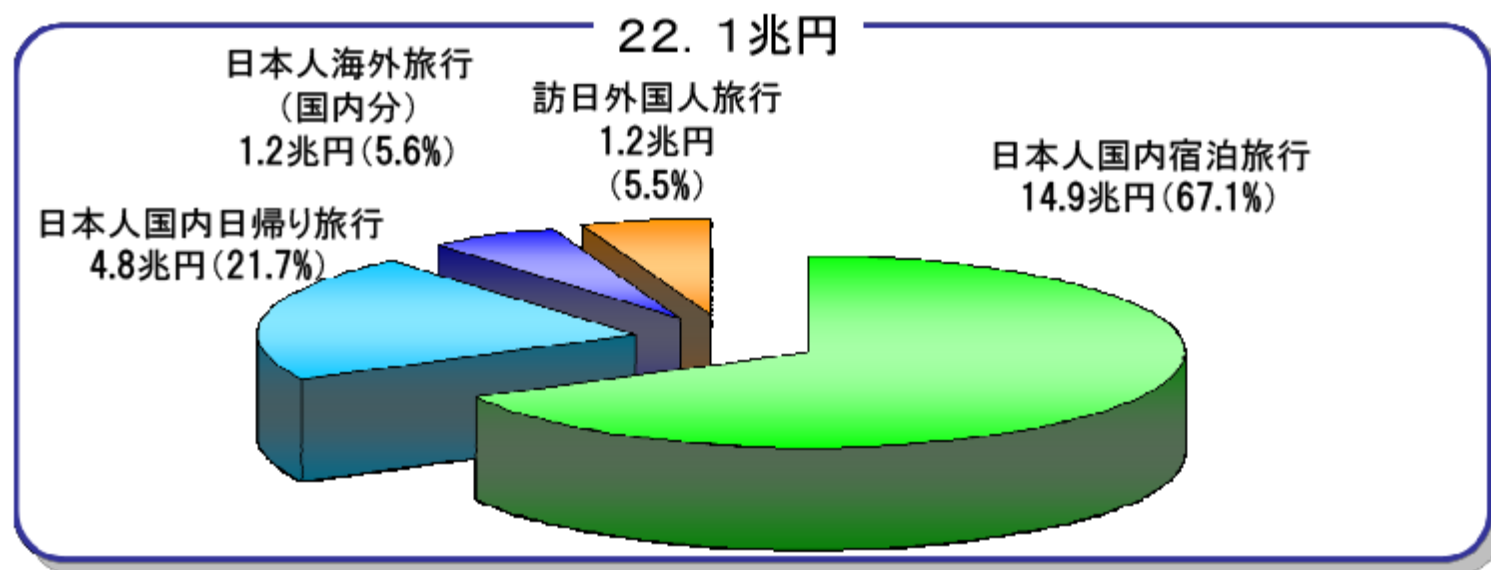


出典:国土交通省観光庁「旅行・観光消費動向調査」による。

若者旅行振興の必要性②国内の観光市場の内訳(平成21年度)

○訪日外国人旅行の増加に期待はかかるものの、市場自体はまだ小さく、日本人旅行が大部分を占める。

⇒ 現状は国民の旅行(特に宿泊旅行)が市場を支えている。



若者の旅行振興の必要性③国民1人当たり国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数の推移

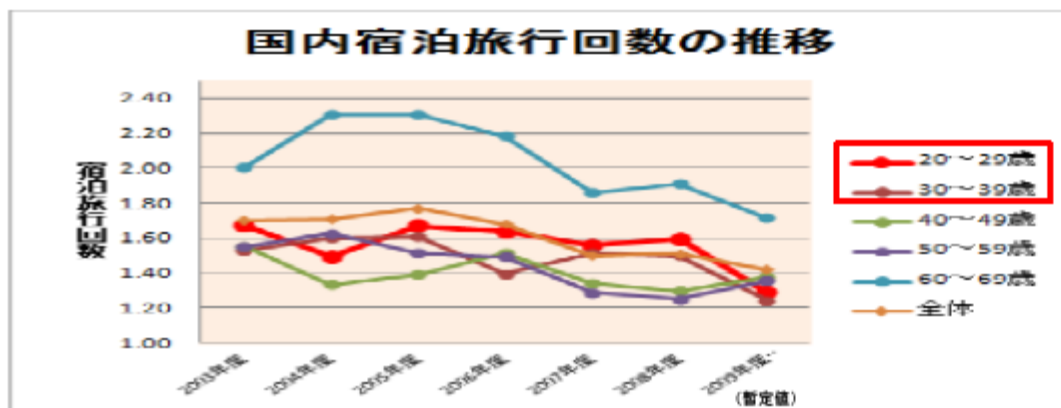
○国内宿泊観光旅行の回数及び宿泊数はともに減少傾向
⇒現在実質市場を支えている、国民の旅行喚起も引き続き促していく必要がある。



出典：国土交通省観光庁「旅行・観光消費動向調査」による。

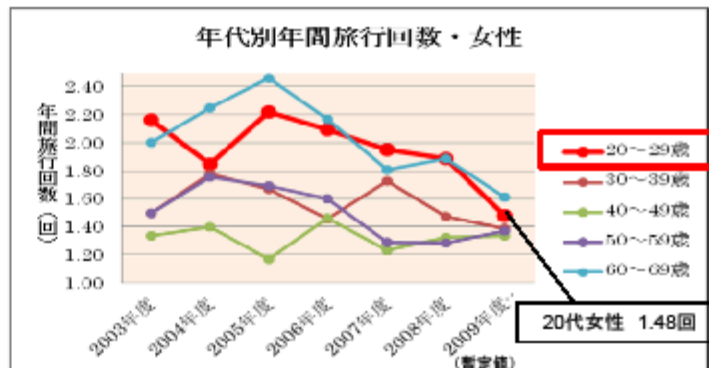
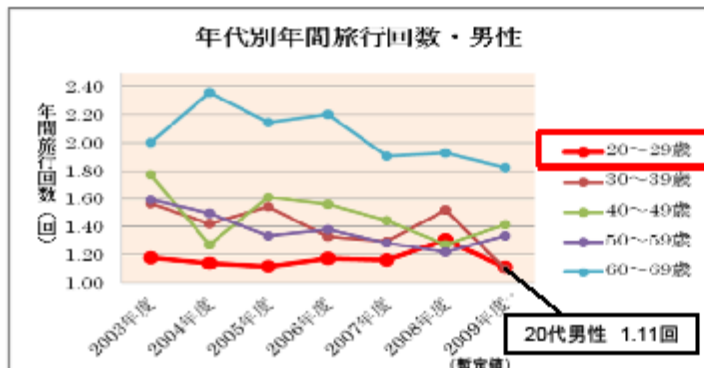
若者の旅行振興の必要性④年代別・男女別の国内宿泊旅行回数の推移

○年代別の旅行回数を比較すると20代、30代の旅行回数の落ち込みが顕著。
 ○20代男性は、過去5年間を通じて年代別男女別で旅行回数が最も少なく、20代女性は60代女性に次ぐ水準であったが、一転、2009年度は落ち込みが大きくなっている。



2009年度宿泊旅行回数 (前年度比)

20代	1.29回 (-0.31)
30代	1.24回 (-0.26)
40代	1.38回 (+0.08)
50代	1.35回 (+0.1)
60代	1.72回 (-0.19)
全体	1.42回 (-0.09)



観光庁「旅行・観光消費動向調査」

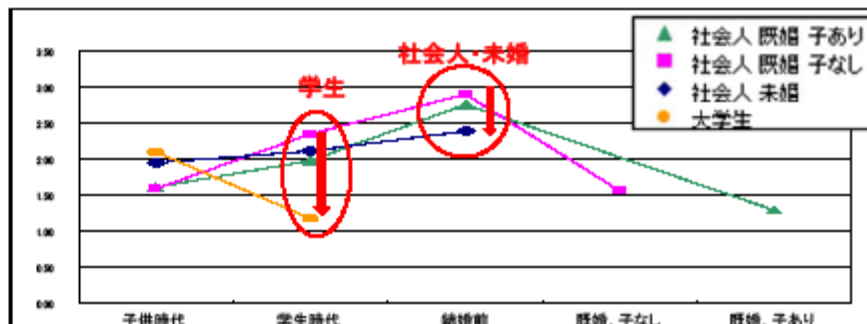
若者の旅行振興の必要性⑤将来的な懸念(その1)

ライフステージの中で一番旅行する時期(社会人・結婚前)の回数低下

・これまでの世代で、最も旅行への活性が高かった未婚社会人は、休日・休暇の自由度が相対的に高く、現在も旅行回数は多い。しかし、所得減少、貯蓄など可処分所得の減少によって、これまでの世代を比較した旅行回数は減少しており、結婚後、家族旅行などへの影響が懸念される。

・現在の学生は、他の世代と比較して学生時代の旅行回数が大きく減少しており、将来的な旅行動向に影響を与える可能性がある。

<属性ごとのライフステージ別の各段階における国内宿泊旅行回数の比較(回/年)>



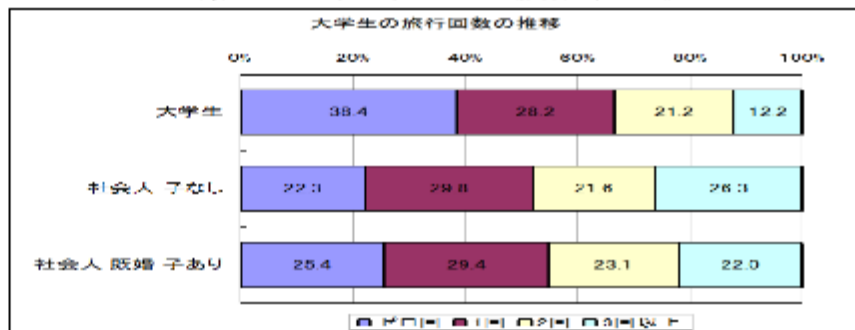
「平成20年度日本人の旅行行動に関する実態調査(観光庁)」

大学生の著しい回数低下

・大学生の旅行回数が減っている。大学生のゼロ回層の割合が社会人より多いことに加え、3回以上のヘビーユーザー層の割合も低い。

・年に2回という割合は、社会人と同程度ある。年2回旅行に行く層は、その動機が「毎年決まった時期となると旅行に行く」という、定期的な旅行実施層である。

<属性ごとの大学生時代における旅行回数の比較>

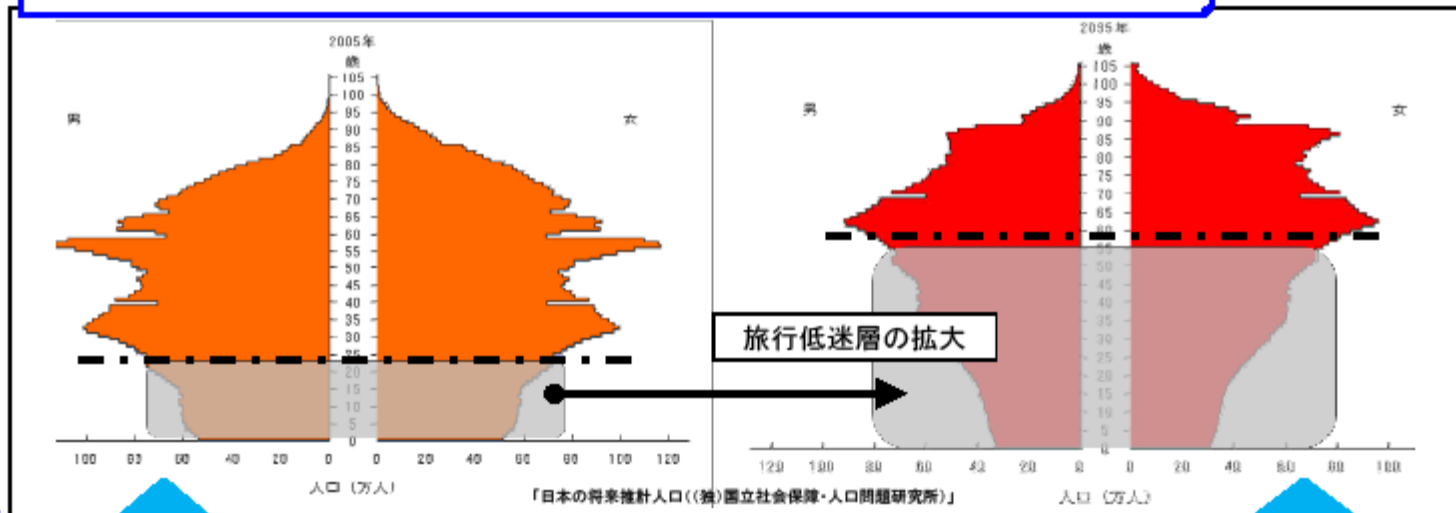


「平成20年度日本人の旅行行動に関する実態調査(観光庁)」

若者の旅行振興の必要性⑥将来的な懸念(その2)

- ・○30年後(2035年)には、旅行低迷層が人口の半分を占める(今の若者(20代)が、家族旅行の主役(50代)になる時期)。
- ・長期的に国民の旅行行動が低下する懸念がある。

若者(大学生・社会人未婚)の加齢、中心世代化につれ旅行全体が縮小する



旅行市場の縮小？

旅行を知らない
人が急増？

このような問題意識を踏まえ、将来的な旅行市場の維持及び若者により旅行体験をしてもらう観点から

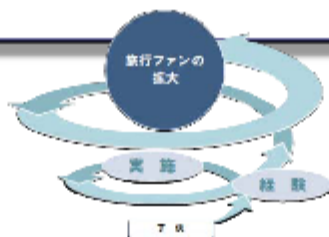
若者旅行振興研究会を発足

2. 若者旅行振興研究会のねらい

次世代を担う若者に旅の効能を享受してもらう

+

将来的な旅行市場の維持



若者にターゲットをあてた旅行振興

研究会のねらい

1. ターゲット
 - 若者(大学生~20歳代)のうち、どの層から先に取り組むか → 大学生ではどうか
 - ターゲットの属性、特徴はなにか
 - 大学生の場合(授業・就職活動・アルバイト等で忙しい、経済格差が拡大など)
2. ターゲットに何を訴えていくか
 - 旅行に行く層に訴えること、旅行に行かない層に訴えること、全体に訴えること
3. そのための手段はなにか
 - 商品開発か、流通改革か、あるいは、しくみ・制度が必要なのか
4. 今後の取り組み
 - 役割分担 → 民間が行うこと、大学が行うこと、国が行うこと など
 - パイロット的に行える取り組み

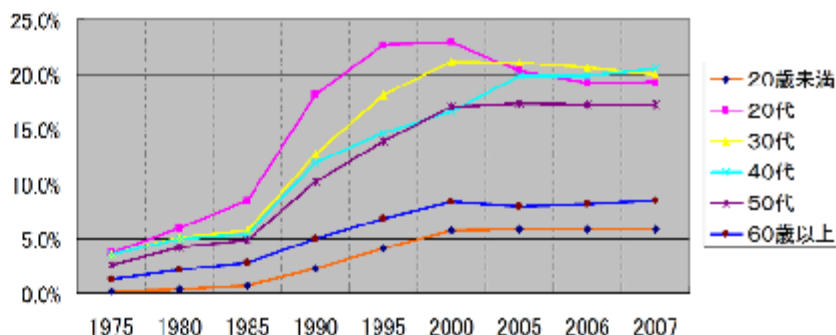
参 考

若者の旅行動向データ①(若者の海外出国率の推移)

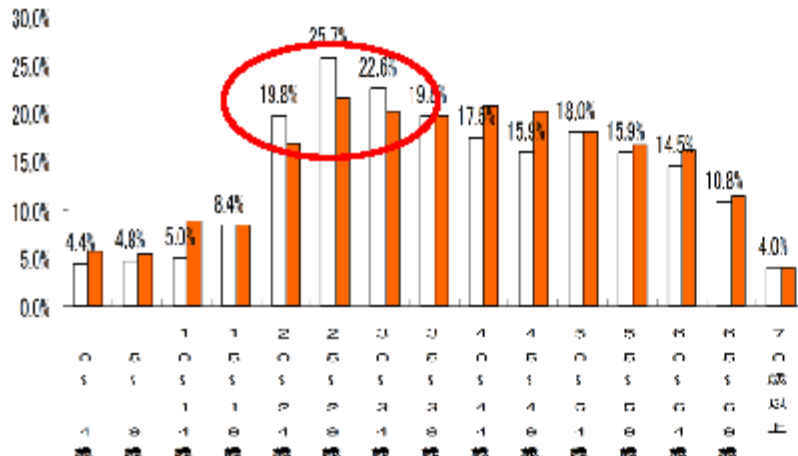
・年齢階層別にみると、20代から30代前半の出国率に大きな落ち込みがみられる。

・20代について男女別にみると、特に女性の落ち込みが顕著である。

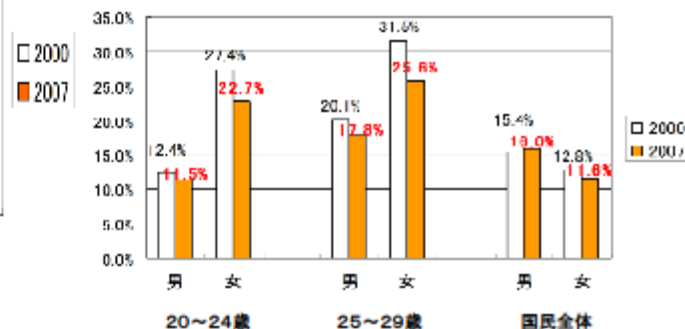
年齢階層別出国率の推移



年齢階層別出国率



20代の男女別出国率

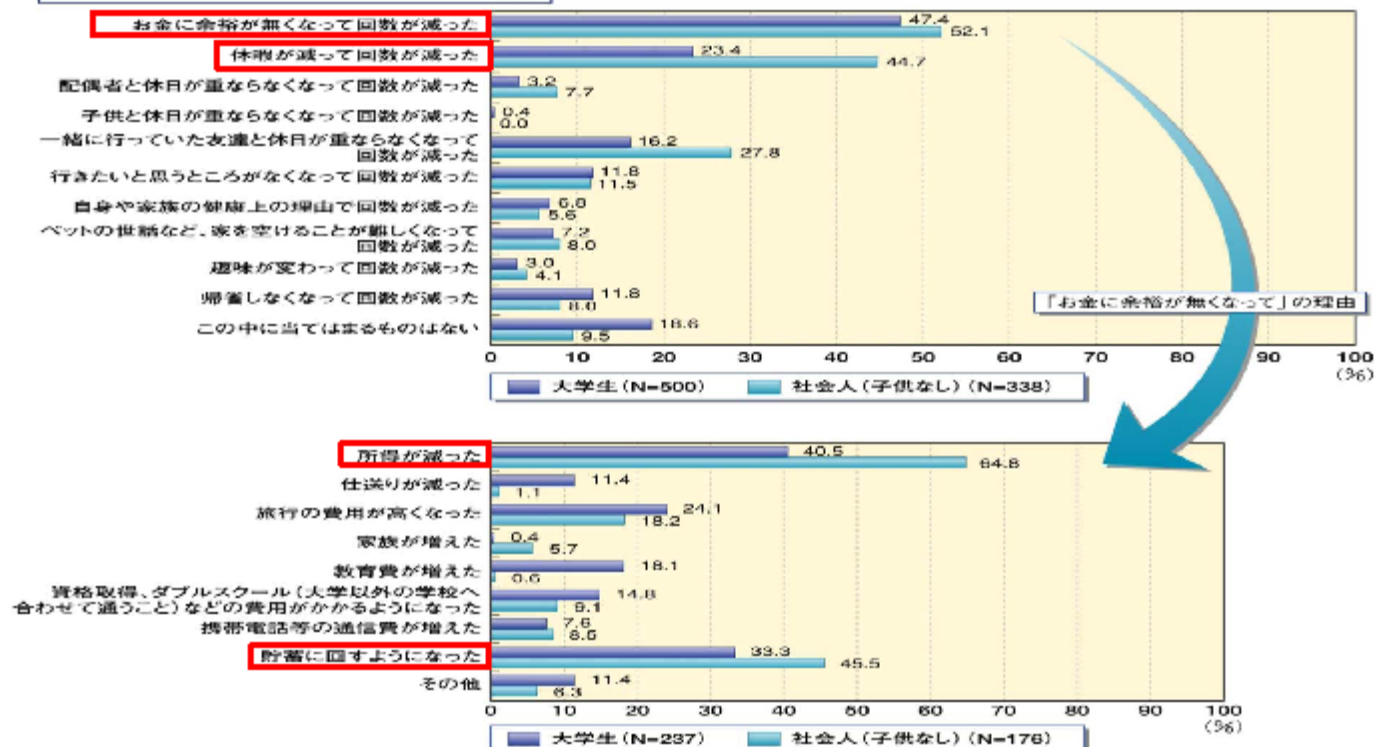


※出入国管理統計、国勢調査(2000年)、人口推計(2007年)により国土交通省作成

若者の旅行動向データ②(旅行に対する意識)

若者の国内宿泊観光旅行の減少理由

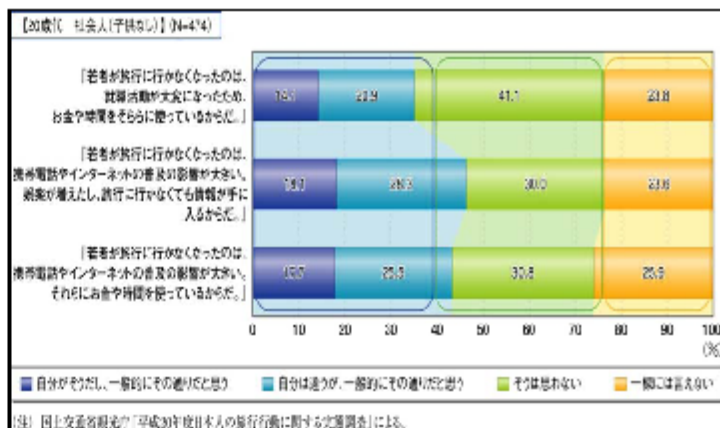
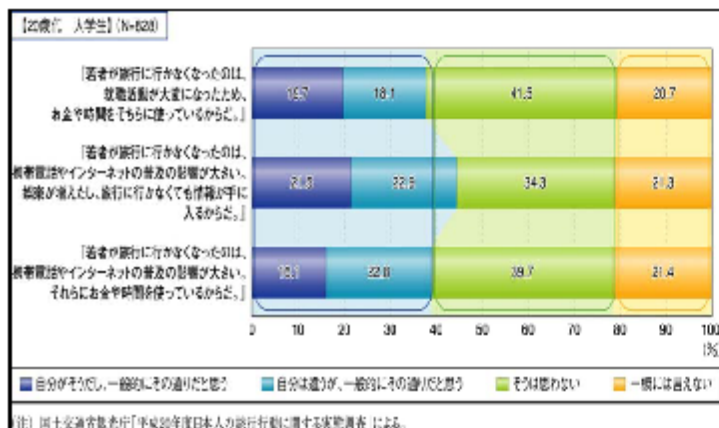
【20歳代 大学生・社会人(子供なし) 複数回答】



- (注) 1 国土交通省観光庁「平成20年度日本人の旅行動に関する実態調査」による。
 2 平成21年2月までの1年間の国内宿泊観光旅行回数が、5年前よりも減ったと回答した者を対象に聞いた。

若者の旅行動向データ③(旅行に対する意識)

旅行低迷に対する意識調査

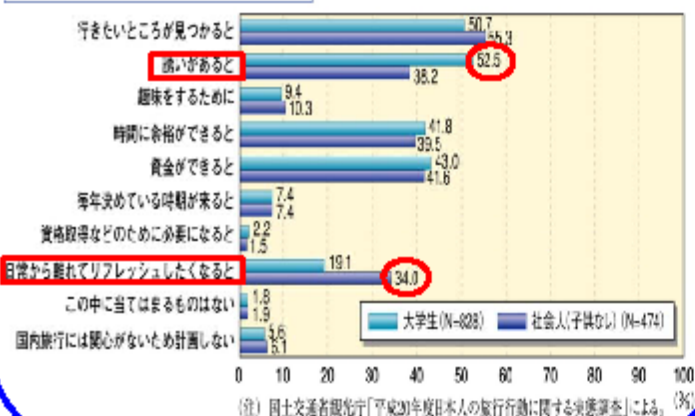


・若者の国内旅行の実施に影響を与える一般的な理由として考えられる「就職活動」、「携帯電話やインターネットの普及」の影響について見ると、大学生・社会人ともに肯定する回答(約4割)、否定する回答(約4割)、一概には言えないとする回答(約2割)の割合に顕著な違いは見られず、国内旅行について若者が多様な意見を持っている可能性が示唆される。

若者の旅行動向データ④(旅行に対する潜在需要)

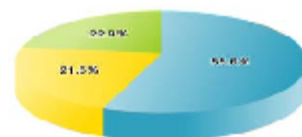
国内宿泊観光旅行に出かけるきっかけ

【20歳代 大学生・社会人(子供なし) 上位3つを回答】

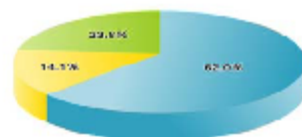


若者の旅行回数増加意向

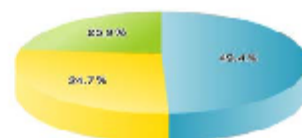
【20歳代 大学生2 (N=608)】



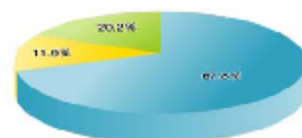
【20歳代 社会人(子供なし) (N=474)】



【20歳代 大学生と社会人(子供なし) 男性 (N=608)】



【20歳代 大学生と社会人(子供なし) 女性 (N=608)】



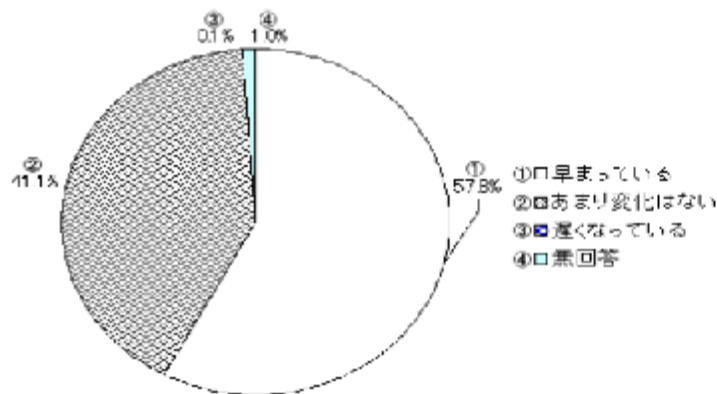
(注) 国土交通省観光庁「平成30年度日本人の旅行動に関する実態調査」による。

・若者が国内宿泊観光旅行に出かける「きっかけ」について、「行きたいところが見つかる」という「きっかけ」が最も多い。また、大学生は「誘いがあると」という回答がもっとも多く、社会人では、「日常から離れてリフレッシュしたくなると」という回答も多い。今後の国内宿泊観光旅行の実施に対する意向について見ると、調査対象の若者において半数以上がもっと旅行に行きたいと考えている。

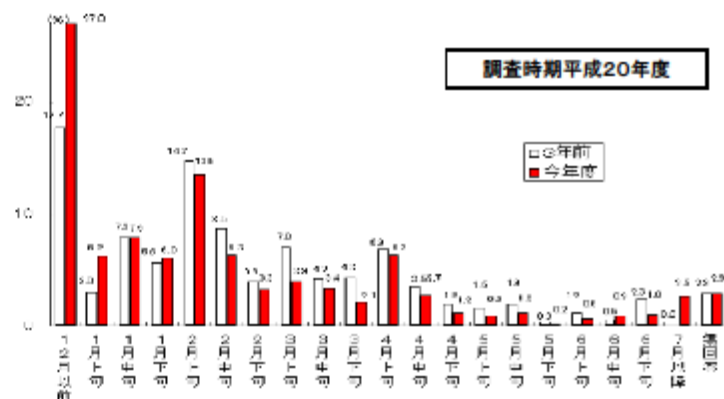
大学生の動向データ①

大学生の就職活動の早期化

<就職活動の開始時期への意識>



<就職活動の開始時期>



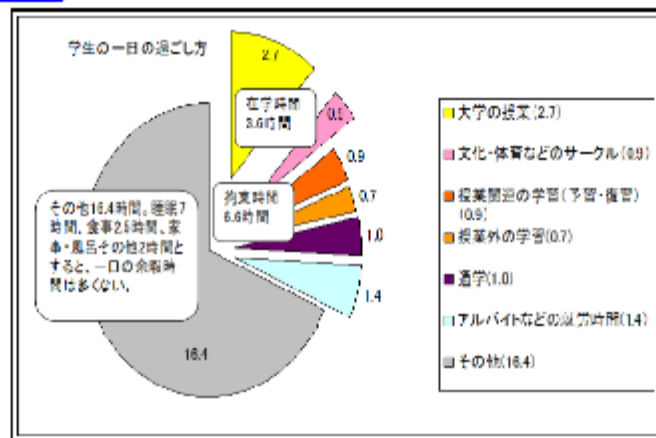
「平成20年度 学生の就職・採用活動に関する調査結果について(文部科学省)」



- ・就職、採用活動との比較については、「早まっている」が57.8%と最も多く、次に「あまり変化がない」が41.1%。
- ・就職活動の開始時期は、3年生の「12月以前」が27.0%と最も高かった。3年前との比較でも就職活動は早期化している。

大学生の動向データ②

大学生の時間の使い方



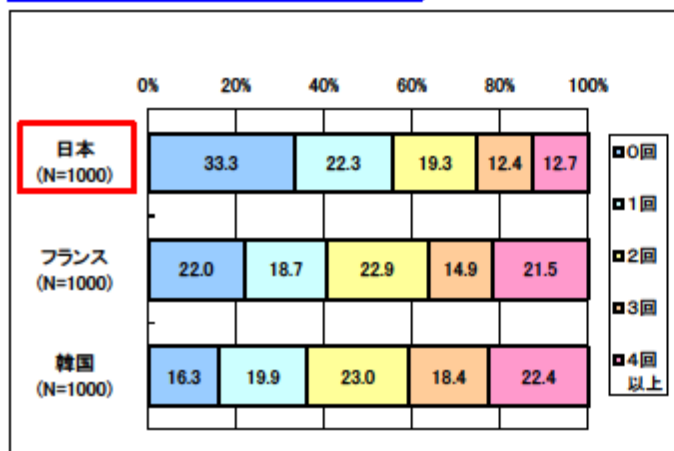
『大学生生活の学習・生活実態調査(ベネッセ教育研究開発センター)』より作成



- ・授業だけでなく、きちんと予習・復習、学校以外の学習も行っている。(学業拘束時間6.6時間)
- ・その他16.4時間の中で睡眠・食事・家事・風呂等の時間を勘案すると一日の余暇時間は多くない。

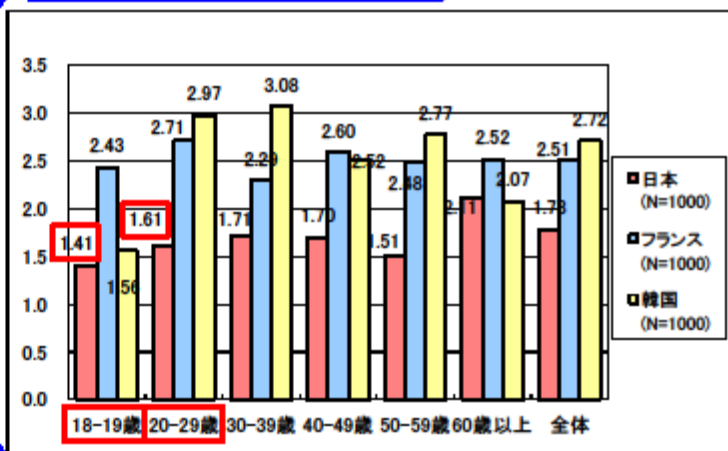
諸外国との観光旅行の動向比較①

年間宿泊観光旅行の回数



観光庁「平成21年度 旅行観光に関する国際調査」

年間宿泊観光旅行の回数



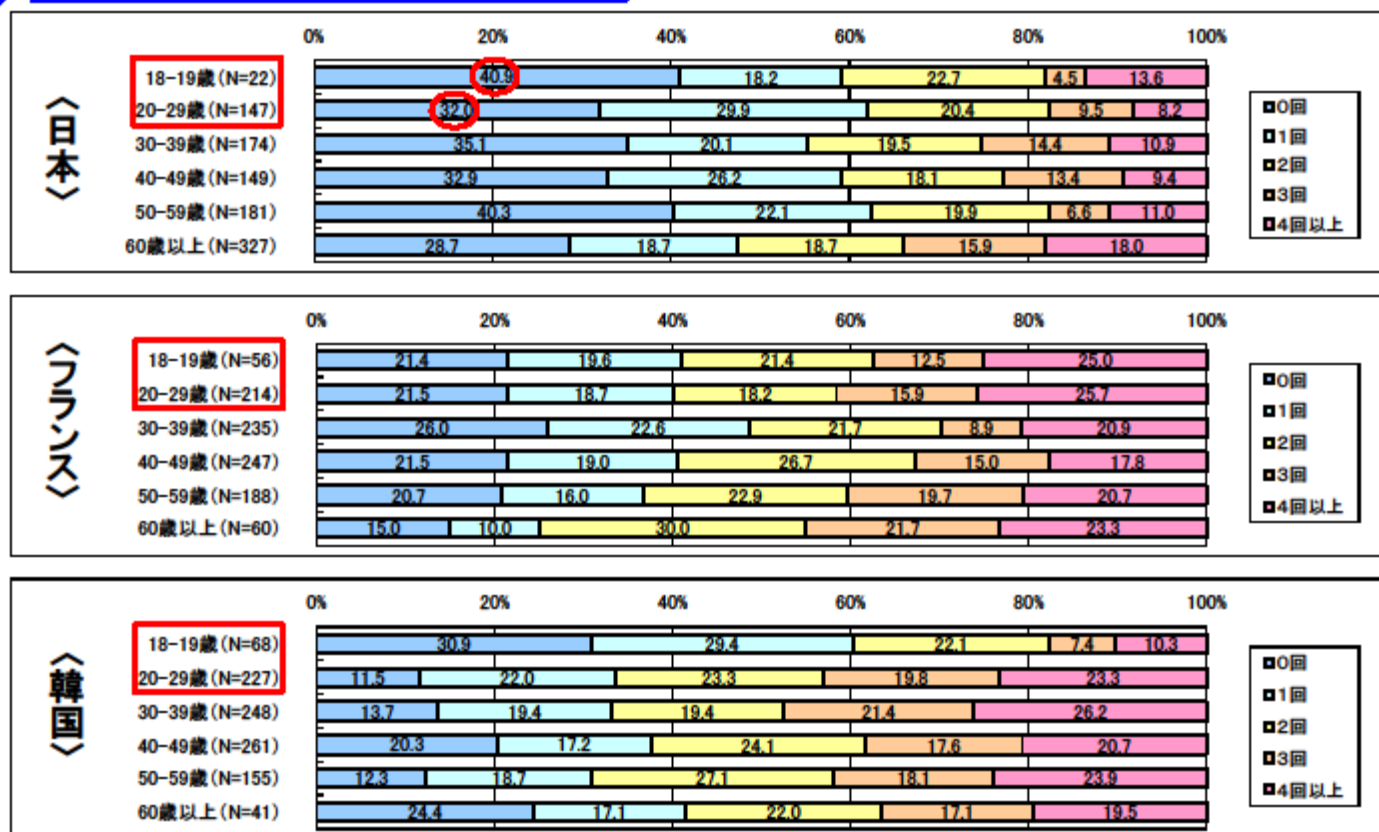
観光庁「平成21年度 旅行観光に関する国際調査」



・1年間に宿泊旅行に4回以上行く層の割合について見ると、日本はフランス・韓国に比べて割合が大幅に低い水準にある。年齢別で見ると、日本はフランス・韓国に比べて60歳以上を除いて低い水準にある。20歳代・30歳代は大幅に低い水準にある。

諸外国との観光旅行の動向比較②

年代別の年間宿泊観光旅行の回数



観光庁「平成21年度 旅行観光に関する国際調査」